

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和7年度第1回川西市立学校のあり方審議会	
事務局(担当課)		教育政策課	
開催日時		令和7年8月28日(木) 午後6時00分	
開催場所		川西市役所 4階 庁議室	
出席者	委員	川上 泰彦 委員、柳田 竜一 委員、伊丹 康二委員、山本利映 委員、下村 亜矢子 委員、平瀬 史明委員、杉村 浩 委員	
	その他		
	事務局	石田教育長、岩脇教育推進部部長、下内教育推進部理事、富本教育推進部副部長、高橋教育推進部副部長(教育保育・インクルーシブ推進担当)、他課員3名	
傍聴の可否		可	傍聴者数 2名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 議事 清和台地区における学校のあり方検討状況の進捗報告について 4. 閉会	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

[開会 午後6時00分]

## 1 開会

事務局

皆さん、こんばんは。それでは、お時間がまいりましたので、令和7年度第1回川西市立学校のあり方審議会を開会いたします。

皆様におかれましては、本日はご多忙中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は本日の進行を務めます、川西市教育委員会教育推進部教育政策課の廣末でございます。どうぞよろしくお願いたします。

会議開催に先立ちまして、事務局から連絡事項をお伝えさせていただきます。ご発言の際は、マイクを通してご発言いただきますようお願いいたします。

会議録を作成するために、ICレコーダーを使用しておりますが、マイクを通した音声のみしか録音できない仕組みとなっております。ご発言の際は、お手元のマイクのボタンを押していただき、マイクが緑色になっているのをご確認の上、できる限りマイクを手元に寄せていただいてからご発言いただきますようお願いいたします。

本日の委員の皆様のご出欠につきましては、全員ご出席いただいております。

事務局の出席につきましては、教育長石田、教育推進部長岩脇、教育推進部理事下内、教育推進部副部長富本、高橋、ほか3名でございます。

本審議会は、川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条に基づき公開することとしており、傍聴できることとなっております。本日は、傍聴者が来られています。

会議録作成のため、本審議会の様子を録画・録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

それでは次に、石田教育長より、ご挨拶を申し上げます。

教育長

改めまして、こんばんは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。令和7年度第1回審議会ということで、資料を見ていただいたらお分かりかと思いますが、答申が出た後の今の状況について担当からご説明させていただきます。それを踏まえて、様々な知見、ご意見をいただけたらと考えています。充実した時間になりますよう、よろしくお

願います。

事務局

それでは、早速ではございますが、ここから進行は会長にお願いしたいと思えます。

川上会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

会長

どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、次第に従いまして、議事を進めさせていただければと思えます。

お手元の次第でございますとおり、今日の議事としては一点、清和台地区における学校のあり方検討状況の進捗報告についてとなっております。

それでは、まず、こちらにつきまして事務局よりご説明いただければと思えます。よろしくお願ひいたします。

事務局

#### ①令和7年度第1回川西市立学校のあり方審議会スライド説明

会長

ありがとうございました。

今日は何かを決める方向で煮詰めていくという趣旨のものではなく、今ご説明いただいたところについてしっかり確認をしましょうというのが一点です。

それから、これに関連しての意見交換をしていきたいと思いますというのがもう一点になるかと思えます。

個人的な感想から入りますが、非常に丁寧に進めていただいている様子を伝えていただけたかなと思えているところでございます。委員の皆様、何かもう少しここを詳しく聞いてみたいという点であったり、事務局からの説明の中でお感じになったことがあればご意見いただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。何かございましたら挙手いただければと思えます。

まず、これまでの流れの説明の中で、懇話会などかなりの回数をやっています。それから地域説明会の1回目があり、2回目に向けて意見収集や説明を進めていると思うのですが、この辺の進め方全般として、保護者の立場、地域の立場の両方があるかと思えますが、何かご意見、ご感想等があればお話してください。

委員

進め方については、会長がおっしゃっているように丁寧だなと思えました。就学前の方であったり、教職員の方であったりと、立場によって分け

ているので話しやすい状況がつくれているのかなと思います。

保護者への説明会だと、説明会をしたけど知らなかったという場合もあったりするので、このように個人懇談のときなどに、話が進んでいることを言っただけなのは、動きが分かってよりよいと思いました。

全体の中で言いますと、二点ありまして、やはり通学のことです。今、どちらの学校も集団登校がなくなっている状況なのでしょうか。

事務局

清和台小学校、清和台南小学校ともに、1年生のために4月から期間を限定して実施しています。いずれにしても、小規模化してきているので、みんなが集まる場所がちょうどいいところとなったら、学校のすぐ近くとなってしまう事情もあって、なかなか集団登校というのをつくれないというのは聞いております。

委員

ありがとうございます。

小規模に限らず、市内でも集団登校をなくしていくような状況にもなっているのかなと思いますが、やはり小学校1年生の登校の安全面がすごく課題になっていると思いますが、通学の距離を考えると、スクールバスとかがあるといいなと思いました。

通学の点が一点と、あともう一点は、やはり早めに情報を伝えてほしいということです。早く決めて動き出すというところですけども、決めるのは早く決めて、そこからゆっくりでもいいかなと思います。学校の近さで住居を選んでいる家庭も多いという話があり、みんなに間に合うのは難しいと思いますが、引っ越してくるときに、「あの地域に中学校ができる」と聞いて引っ越してきていたと、北陵の地域でも聞いています。市長は、結構前から中学校は建たないというのは決まっていて、それを市民に周知していたと言っていました。不動産会社からしたら、その辺の情報を知らなかったのかもしれませんが、住む側からすると、自分が思っていたことと違ってくと、住み続けることに対する満足度というのがやはり下がってきます。ある程度、統合などは仕方ないことだと思いますが、その辺が決まれば早めに就学前の方々にも周知しておくといいのかなと思いました。

以上です。

委員

今回この資料を見させていただきまして、すごく工夫してたくさんの方々に意見を聞いて慎重に進めていただいているのを感じました。なかなかこういう意見とは言いづらかったりするところがありますが、保護

者が学校に来る機会を逃さずに聞いていただくとか、細かく座談会を開くなどして、意見を聞く場をつくっていただいています。個別意見交換会の回答率を見ても84%、90%であり、皆さんの意見をしっかり聞いていただいているのをすごく感じました。子どもたちの教育に関わる大きな決断ですので、今後もこのように丁寧をお願いしたいなと思います。きっといろいろな意見があると思いますので、まとめていくのが大変だと思いますが、粘り強くしていただけたら一つの方向性が見えてくるのではないかなと思っております。

先ほどもありましたけれども、やはり保護者が一番心配しているところは通学に関してだと思いますので、そこがクリアにならないと反対意見がすごく多くなると思います。もし統合することになれば、その意見はしっかり聞いていただいて、どうしたらいいのかしっかり考えていただくということが一番重要なのかなと思います。このまま小規模校のまま行くというのであればまた違ってくると思いますが、統合するのであれば、やはり、一保護者としても、通学のことは心配だなと思いますので、皆さん同じ意見だと思います。

あとは、いろいろな選択肢の中に義務教育学校も出てきていると思いますが、多分皆さんイメージすることが難しいと思います。今までとは少し違う新しい形だと思うので、そこを加古川の学校の見学をするというのはすごくいいアイデアだなと思います。こういった感じで丁寧に進めていただくことをありがたく思っております。これからもよろしくお願い致します。

会長

ありがとうございました。急に振ってしまいましたが、しっかりお答えいただきありがとうございます。また途中でお気づきの点ございましたら、ご発言いただければと思います。

今、進め方のお話と、もう一つ、やはり通学の話が大きく出ていました。教職員との意見交換も含めて、この間進めている様子であったり、子どもが対象の意見交換として学習に組み込んでいる感じは非常に面白いなどと思って見させていただけに思いました。特にこの辺りについて、そのほかも含めてで構いませんが、いかがでしょうか。上がってきた意見であったりとか、子どもの意見収集の部分等につきまして、何かご意見、ご感想等があれば伺えればと思います。いかがでしょうか。

委員

失礼します。  
昨年度、校長会でアンケートをして審議会で発表させていただきましたが、

その内容と清和台小学校、清和台南小学校で聞き取られた内容が大方同じ内容だなということを認識しました。

その当時も述べさせてもらいましたが、校長としては、やはり教員数が重要になってきます。学校力としても重要になってくるので、1人でも多い教員がいることにこしたことはありません。

子ども同士の多様な人間関係は、これまでも出てきていましたが、やはり小学校の年代でも重要だと思います。

子どもと教員とのたくさんの関わりというのも大切にしたいなというところで、やはり学年の人数としては、クラス替えができる人数が必要であるというのは、清和台小学校と清和台南小学校のどちらの先生たちも感じているのかなと思います。

19ページに小規模校のよい面、難しい面の記述があり、それも以前から出ているところではありますが、清和台小学校と清和台南小学校の場合において考えると、二つ合わせた人数であっても、いきなり一気に人数が増えるわけではないので、小規模校のよい面も継続できるぐらいの人数になるのではと、校長としては思います。それは工夫次第によってはあるかもしれませんが、決して異年齢で交流しにくい人数になるわけでもなく、一人一人見れない人数になるわけでもなく、2クラスになった分の先生が増えて、難しい面もフォローできるかなと思います。

それから、子どもの意見について、先ほどお話がありましたが、いいアイデアだなと思いました。自分の学びの姿を確認したり、自分の将来のことを考えたり、川西市のほかの学校の違いを認識して知ったり、そこから自分の将来像をイメージしたり、さらには自分たちの後輩のことも考えることになるのかなと思います。全て、地域の人や物のつながりを見つめることにつながっていきそうな気がするので、総合的な学習で学校のことについて学習するのは、大変意味があることだと思っています。

委員

失礼します。

今、言っていたところと重複する部分があるかとは思いますが、昨年度、中学校長会で出てきた意見と、清和台小学校と清和台南小学校の先生方の出された意見というのは、一定、重複するようなところはやはりあるのかなと思いました。単純に業務量が増えるというようなところもありますし、人数が少なければ若い先生でも1人で重い責任を背負った業務を担当しなければならなくなりますので、そういったところが小規模校の課題であると思いました。

私が勤めている中学校は市内でも大規模な学校になりますが、それでも

今ちょうど生徒の人数が減っていつているところです。

今年度、生徒の人数が減ったということで、加配の先生が減ったり、単純に教員の配置が減り、少し減っただけでも、大規模校でさえ業務が増えたなというふうを感じるようなところがありますので、小規模校であれば1人の人数がなおさら大きく関わってくると思います。ですので、そういったところを解消できる方法が、やはり望ましいのかなと思います。

あと、児童の意見交換の部分で「トイレが混むんですか」というような意見が出ていましたが、そういうふうに自分たちのこと、地域のこと、学校のことを私ごととして考えるということは、その地域の未来をつくっていき、自分たちの成長につながる学習なのかなと思います。小学生であっても私ごととして考えるということが、自分の地域に愛着を持ったり、また自分の学校に誇りを持ったりすることにつながるのかなと思いますので、こういった取組は非常にいい取組だなと思いました。

以上です。

会長

ありがとうございました。

委員

今回、この4月からのいろいろな取組を見させていただいて、本当に丁寧に意見を集めながら進めていただいているなというのを感じています。

最終的に方向性を決めなければいけないという中で、私がずっと思っているのは、当然、地域の方とかまちづくりということも考えながら進めていくことは大事だと思いますが、やはり第一に考えなければいけないのは、今の子どもたち、それから、これから上がってくる子どもたちのことかなと思います。もちろんその子どもたちの後ろには保護者の方がいらっしゃるということで、そういった意見をやはり第一優先にすべきかなと思っています。

加えて、やはり今の学校現場で働いている先生方がどういう意見を持っているかということもすごく大事なことなので、しっかり意見をまとめていくのがいいのではないかなと思っています。

先ほどからいろいろな先生方が言われているように、子どもたちの意見を聞くための授業を使った取組というのが本当に素晴らしいなと思っています。子どもにアンケートはいろいろな場面でとりますが、子どもたちは割と上手にアンケートの意見をぱぱっと書いてしまいます。ですが、こういうふうに本当にいろいろな学校ことを考えさせたりとか、歴史から含めて考えたりする中で、やはり自分の考えがしっかりしてくるのではないかなと思っていますので、その中で取った意見というのは、すごく貴重な意見

ではないかなと改めて思いました。

それから、義務教育学校の話が出たと思いますが、私は以前も言いましたように、義務教育学校の校長をしていました。その経験で感じることで、やはり義務教育学校のよさというのは、一番は小学校と中学校の先生が一つの学校の先生になるということです。小学校と中学校には意外と壁があると言われます。文化が違ふとよく言われますが、私はその考えをすごく嫌っていたので、そういう言葉を使わないようにと学校現場では言っていました。実際に違ふところはありますが、それを一つの学校の教師としていいところを取っていこうということができたかなと思っています。

特に、小学校の1年生の子というのは、1から全て教えていかなければいけません。これは授業の勉強もそうですし、生活面もそうですし、丁寧な指導をすごく小学校の先生は得意とされているなど感じました。

中学校は、逆にある程度小学校の経験があるので、いろいろなことが分かってくる中で、今度は義務教育が終わった後の進路をどうするか、自分で選択するための学力をつけないといけないという思いで授業を組んでいます。その辺りというのは小学校の先生であっても当然思っている先生もいますが、やはり中学校の先生のほうが強いかなと思います。その考えを小学校の先生、中学校の先生が同じ一つの学校の先生として思えることで、小学校1年生からそういったことも考えながら9年間の教育課程を考えていけるところが最大のメリットではないかなと思っています。

義務教育学校というのは、独自の教育課程をつくれるという利点があります。一般の小学校、中学校というのは文科省から出されている教育課程をやっていくということになりますが、義務教育学校は新しい教科をつくることができます。例えば、ふるさと科のように、その学校の特徴に合わせた、地域独特の文化を教えていこうというのを1年生から9年間やっていくなどです。

あるいは、私のところでは英語教育が始まる前の英語を小学校から取り入れようということで、1年生から英語の教育をやっていました。そういったことも義務教育学校はできるという利点があるかなというふうに思っています。

以上です。

ありがとうございました。

学校関係の皆さんからのお話でしたが、お恥ずかしながら私もそうであったのですが、学校の様子や今後のことについて、教育課程の中で学習

会長

に組み込んで子どもの意見を聞いていこうというのはあまり聞いたことがなく、「初めて見たぞ」と思っていたところでしたが、先生方の意見で、前例を知らないのは私だけではなかったと少し安心し、非常に面白い取組だなと思って聞かせていただいていたところでした。

今回の事務局説明の中でも跡地利用の話が幾つか出てきていました。感想を申し上げた子どもの意見収集の部分というのも、おそらく今後のまちづくり、まちの在り方に子どもが関心を持つことであったり、「ここで生きていくんだ」というような、町に対しての意識が少し醸成される部分もあるのかなと聞いていましたが、委員のお立場から、地域合意の部分や、今後の地域づくり、まちづくりという部分に、何かご意見、ご感想等があればいただければと思います。

委員

はい。ありがとうございます。

まず、どのような学校にしていくかというときに、子どもたちに、あるいは懇話会などを通して聞くときに、どうしても規模の話とか統廃合を少し念頭に置いた話をすると思います。子どもたちも薄々分かっていますし、保護者はもちろん分かっています。皆さんと意見交換をした結果として、統合するのかもしれないのかという、それが答えではなく、どのような学校を造っていくか、どのような清和台、仮称かもしれませんが将来の清和台小学校というものをどのような学校にしていくかが必ずその先にあります。どのようなクラブ活動ができるのだろう、どのようなユニークな取組ができるのだろう、それをみんなで作っていきましょうという気持ちを常に持っておかないと、イエスカノーかの、8割が賛成ですといった話になってしまいます。去年話したときに、「夢しかないですよね」のようなこと言いましたが、新しい学校をどのように造っていき、どのような学校にしていくかということを常に考えて、こういうことができるのであればこちらのほうがいいのではないのでしょうかという保護者からの意見が出れば、ではもし次に新しい学校ができれば、このようなことがさらにできればいいですよねというところの話をします。つまり、「賛成なんですよ」や、「反対なんですよ」とかではなくて、未来をぜひ見てほしいなと思います。

授業の中で取り組む話もユニークだとは思いました。何せ子どもたちは、転校生はまだしも、一つの学校しか知らないのです、どのような学校がいいのですかと言われても、「えっ」、となると思います。私は子どもの頃に小学校の参観の日に、父親が見に来ていて、先生からどのようなお父さんですかといったことを一言ずつしゃべられました。「どんなお父さんですか」と聞かれて、私は「普通です」と言いました。父親はずっこけて、「普

通の親か、わしは」と言っていました。

ですが、私からすると、父親はよくも悪くも1人なわけで、友達のお父さんを見たこともなく、会ったこともなく、しゃべったこともなく、怖いのか賢いのか、すごいことができるのか、それさえも分からないので普通なのです。

ですので、そういう意味で、この子どもたちにどんな学校がいいかと聞いても難しいです。だからこそ、ほかの学校を知ることしか答えはないのであろうなと思います。

これからはまだ難しいでしょうが、例えば、授業が終わって、ほかの学校の子どもたちの様子をウェブカメラなどで撮っておくとか、子どもたち目線でウェブカメラ、アイカメラのようなものをつけて、学校が終わった後に、友達がこれぐらいで「ドッジボールしようぜ」と言って盛り上がっている、数人でいつもの友達のところでも静かに遊ぶなど、学校の雰囲気などをできるだけ伝えてあげたほうがいいのであろうと思います。「先生は何人いますか」に対して、「20人です」と言葉で言われてもイメージができないので、学校の様子をビジュアルで見せてあげると、子どもたちはイメージが膨らむのではないかと思っていました。

今のは少し余談になるわけですが、先ほどの跡地利用の話で言うと、跡地という時点で、小学校がなくなった後はどうしますか、というような何か負のイメージを引きずってしまいます。新しい町にとって、あるいは川西市にとって貴重な、造成されたこれだけの敷地を、跡地は跡地なのですが、何か未来の敷地という感じで捉えていただきたいなと思います。そういうことを前面に出していくと、住んでいる方も、市は跡地をどうしてくれるのかではなく、これだけの跡地があれば、このようなことができたらいいのではないかとあったり、場合によれば図書館は難しいかもしれませんが、使い勝手の悪い場所にある公共施設をこちらに持ってこようという話になります。

つまり、教育だけではなく、公共施設の再編にも貢献できるような敷地の使い方というものがあると思うので、市としては市長部局になるのかもしれませんが、公共施設全体を見渡して、この先10年、15年で相当厳しくなってくる公共施設はほかにはないのか、こちらに持ってきて複合化、もしくは用途を複合化すれば、もっと魅力が出るのではないかというような発想もしていただきたいなと思います。

清和台小学校は清和台にあるとはいえ、先ほど言ったように、この面積は市の中でとても貴重であると思うので、市全体にとって何かしたいこと、すべきことがないのかということ、市の全部局に問いかけていただきたい

いなと思います。また、まとまった敷地というのは、ニュータウンとしても貴重です。

ですので、いろいろ話し合った結果、民間に売却しようということであれば、それはそれでいいのですが、それをしてしまうと、次に敷地を使用できるのが数十年後になるかもしれないので、市として、市の公有地として活用をぜひ考えていただけたらと思っています。

会長

ありがとうございました。

それぞれのお立場から一通りお話を伺ったところではありますが、ほかの委員のお話で触発された部分であったり、ここについてはもう少し発言をしていきたいというような委員の方もいらっしゃるかなと思いますので、何かに関連して、それから新しい観点、どちらでも結構ですので、何かご発言がありましたら挙手いただければと思います。いかがでしょうか。

委員

先ほどの委員の話聞いて考えました。義務教育学校にするということは、小学生、中学生がみんな同じところに通う形になります。小学校の集団登校というのは高学年が低学年の面倒を見たりしているので、中学生も同じところに通ってくれるのであれば、アンケートに書いてあった保護者の不安というのは少し解消すると感じました。

会長

ありがとうございます。大切な補足部分だったかなと思います。

そのほかに何かご発言がありましたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

私も、義務教育学校もしくは小学校どちらかとなったときに、やはり自分の学校を残してほしいという想いが出てきます。将来的に中学校に通うので、そこでできないかという意見もありましたし、今も地図を見ていて、確かにちょうど中間地点でいいのかなと思っていました。隣接している養護学校も含めると結構敷地が広いのかなと思いましたが、そこも含めてもやはり今の時点では教室は足りないですか。

事務局

まだはっきりと何か試算しているわけではありません。養護学校を含めると中学校の敷地は大きいですし、中学校の建物自体に空き教室はありますが、現在の小学校2校を統合する場合は教室が足りない状況です。清和台中学校のハード面として若干不十分な点はありますが、校舎の増築や改修などをすることで、実現の可能性はあるのではないかと思います。

っています。

委員

ありがとうございます。

去年の話でもおそらく出ていたと思いますが、インクルーシブというところで、養護学校だけ別とかではなく、本当に一体でいろいろな子どもが通える学校というのも一つの方向性としてあるのかなと思いました。

以上です。

会長

ありがとうございます。新しく出てきたご意見部分も含めてで、何かご発言あればと思いますが。よろしいですか。

また、この後も審議会自体は続いていくことになると思いますので、また改めてご意見等々を伺えればと思っております。

もう一つ、事務局説明の最後の部分で、今後のスケジュール感についての説明がございました。第2回の説明会を開催し、教育委員会としての方向性をどう出すかというところで、この年度当初の方向性よりもやや前倒し感を持って進められるご予定という説明があったかと思えます。この辺の今後のスケジュールにつきまして、何かご意見等がございましたらと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(意見なし)

個人的な感想多めの進行になっておりますが、8月の末の会議とは思えないぐらい、すごくたくさんの方で意見を聴取されているという印象を持っております。4か月から5か月というスケジュールの中での意見の収集という意味では、かなり精力的にされているかなと思います。

今後の進み具合によっては、やや前倒しができるのではないかという見込みについても、意見収集自体が不十分だという話にはなかなかならないだろうという感触を持って説明を伺っていたところでございました。スケジュールにつきましても、また進めていただいて、次回のこのあり方審議会のスケジュールにも何か影響が出てくるころかなと思っております。

ご意見ありがとうございます。丁寧な進め方をされているという部分については、委員の皆さんと共有できたところなのかなと思っております。

一方で、丁寧に進めるといろいろなご意見が当然ながら出てまいりま

す。一つの方向性を決めるということになりますので、何か全員一致でないと進まないかという、そういうものでもありません。それから、先ほど委員のお話の中でも出てきたかなと思います。何か多数決で決まってしまうと、おしまいという性質のものでもなく、なるべく今後の姿や、やりたい夢みたいなのを共有しながら次の形を考えていくというのが大事になってくるかなと思います。

最終的な結論の形には直接反映できないご意見というのも出てくるかと思いますが、それは恐らくある結論を取った後に、どこに気を配って次のやり方を進めていくかであったり、次のやり方を考えるときの大事なポイントになってくるご意見なのかなというふうに思っております。

事務局の皆さんにおかれましては、また引き続き丁寧なプロセスを進めていただいて、今後のあり方を私どものほうでまた考えていく機会をいただければと思っております。

委員の皆様方からのご意見、ご感想の部分としては、以上のところで今回はひとまず取りまとめたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

それでは、進行をまた戻したいと思っておりますが、こちらの会議録につきましては、発言の要旨を事務局で取りまとめをしてもらい、私が確認、承認という手続を取らせていただければと思っております。

本日の議事としては以上となります。

次回につきましては、先ほどの事務局説明の最後のほうにありましたとおり、別途事務局から日程確認があった上で開催を検討をしていくということになります。引き続きのご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、進行、マイクのほうを事務局のほうにお返ししたいと思います。議事にご協力ありがとうございました。

事務局

皆様、どうもありがとうございました。

最後に1点、事務局からの連絡事項をお伝えいたします。

繰り返しになりますが、次回の審議会につきましては、先ほどお伝えありましたように、別途、我々から日程調整させていただきまして、開催のご案内のご連絡をさせていただきますので、またご協力のほどよろしく願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

[閉会 午後7時17分]